

地域医療について

問 刈谷豊田総合病院高浜分院の補助金は平成24年度予算2億4千万、これまで補助金を払った総額は15億を超えます。地域医療を強化が求められています。そのためには、本院の医師が高浜分院に勤務してもらうことも含めて、医師の確保を強く求めていくことが必要では。

答 豊田会は200人近い医師がいますが、ほとんどが大学の医局からの派遣をされている関係上、本院から高浜分院に異動することは、原則認められていません。また、大学に直接派遣してもらうためにも、指導ができる医師がいらないことから、フリーの医師を対象に増員を図るとしています。

問 市民がわざわざ刈谷豊田総合病院まで行かなくても済むので、高浜分院の診療科目についても拡充する必要がある。

また、高浜分院にも救急の受け入れ体制をつくるべき。
答 医師の増員と合わせて要望を行っていきます。多額の運営費がかかることから効率的で質の高い救急医療を提供してもらうことが必要と考えている。

総務建設委員会

行政視察

(静岡県島田市・千葉県松戸市・宮城県仙台市)

◆日程 平成24年7月24日～26日

●震災がれき受け入れについて(島田市)

地域の市民、自治会との話し合いを細かにを行い理解を得て、試験焼却を実施、データーを公表することで賛同を得ている。試験焼却のデーターに問題が無いことから風評被害は、今は無い。お茶を飲む為に風評を利用することはあったが今は無い。

安全基準は人による評価であり決めにくい。反対者も含めて現地視察し理解を深めた。放射能計測器と島田市のごみ焼却灰、がれき混焼灰が比較展示



風評対策に新聞広告を北海道まで実施

●防犯カメラについて(松戸市)

「ひったくり」の犯罪が多く、これを減らすために設置。「松戸市防犯カメラの設置及び管理運用基準」を内規として決め、条例はない。プライバシー

の問題は表に出ていない。犯罪の発生件数がカメラ設置以降下がっていることから、抑制効果は出ている。残念なことには、未だ公園など公共施設には設置がされていない。

●震災がれき蒲生処分場について(仙台市)

地震、津波の現場の甚大な被害状況を目にし自然災害の脅威を認識した。

仙台市では『自己完結型』のがれき等の処理を目指し、一次、二次仮置き場を一元化した「搬入場」を整備した。津波被害が甚大であった東部沿岸地区内に専用処理施設(破碎・焼却)を設置。搬入場の運用では、がれき撤去現場で可燃、不燃、資源物の三種類に粗分別搬入場内では十種類以上に細かく分別し実質60%以上のリサイクルが可能とのこと。環境への配慮としては、搬入場の土壌汚染防止の取り組み、アスベスト含有廃棄物は密封保管等処理基準を遵守し、適正に処分。大気中アスベスト濃度調査実施、搬入場の敷地境界における空間放射線量及び仮設焼却灰の放射能濃度測定し、公表し市民の不安を払拭。被災後の活動で、自衛隊、消防団、建設業組合の活躍に感謝されていた。



福祉文教委員会

行政視察

(新潟県長岡市・千葉県柏市・東京都調布市)

◆日程 平成24年7月10日～12日

●小規模多機能型居宅介護(長岡市)

高齢者総合ケアセンターこぶし園のコンセプトは在宅中心の介護であり、住み慣れた地域で家族、近隣と自然に交流しながら生活すること。市内13地区にサポーターセンターや高齢者センターなどの施設を運営している。サポーターセンターには、小規模多機能型居宅介護施設、サテライト型の地域密着型老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護施設と共に、3食365日の配食、24時間365日対応の訪問介護等のサービスを行的している。地域内の住民が気軽に集うスペースとしてのカフェテラスや就学後の児童の遊び場として開放しているキッズルームなどの地域交流室も整備されている。



●地域包括ケアシステム(柏市)

柏市の豊四季台団地は平成22年10月現在、高齢化率40・6%、75歳以上の高齢者の割合も18%。柏市は高齢化対